

西中島南方駅(地下鉄御堂筋線)① 南方から淀川沿いに十三へ

南方駅(阪急京都線) 十三駅(阪急各線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.004 その2 No.052



地下鉄西中島南方駅

① 淀川河川敷

対岸の梅田の高層ビル群を見るだけでも一見の価値があります。散歩やジョギングする人たちとすれ違い、たまにトランペットなどの楽器を練習している人を見かけることもあります。



② 木寺子安地藏尊

この地にあった「木寺村」と「川口新家村」という2つの村が明治16年(1883)に合併し、それぞれの旧村名を1字ずつとって現在の地名「木川村」が誕生しました。明治44年(1911)に現在の淀川河川敷にあった本尊を現在地に移したそうです。

③ 正通院

延享3年(1746)に天満の惣年寄を務めた金谷歳次郎が創建したお寺です。江戸中期～後期に活躍した画家・月岡雪鼎つきおかせつていに師事した都閑月つとみかんげつの墓もあります。閑月は絵画と文章で各地の名所、史跡・名産などを紹介する図会(『山海名産図会』など)の挿画をたくさん描き、旅行をなかなかできなかった当時の人々にたいへん喜ばれました。

④ 十三大橋

中津川にかつて「13番目の渡し」があった場所が、十三大橋の架

かっているあたりです。最初の橋は明治11年(1878)に中津村の村人が架けた有料の木橋で、新淀川が完成した直後の明治43年(1910)に新しい橋が架けられました。その後、大正14年(1925)に淀川以北が大阪市に編入されて淀川区となり、その後の府道の整備にあわせて今の十三大橋が完成しました。北詰に十三の渡し跡の碑、南詰には中国街道の常夜灯型の碑があります。



⑤ 十三

十三という地名のいわれには5つの有力な説があります。①その昔、このあたりには潮の干満で見え隠れする干潟や小島がい

くつかあり、それらを総称して十三島といった「十三島」説。
②乙巳の変(645)で公地公民が宣言された後、土地を計測する条里制が採用され、摂津国西成郡の南端を一条としてここが十三条にあたるという「条里制」説。
③中津川に摂津国の北から十三番目の渡しがあったという「渡し」説。
④古代の淀川の堤だったことから十(つつ)三(み)という字があてられたという「堤」説。
⑤戦国時代の武将は妻子を連れて戦場に行くのが常でしたが、戦争に負けると家族も自害しました。それを哀れんだ近在の人たちが武将を中心に妻子の墓石を周囲に建てて供養することが多く、その墓の群れを十三塚と呼びます。当地は南北朝や戦国時代にたびたび戦場になったので、十三塚があったという「十三塚」説があります。皆さんはどう思われますか。

阪急十三駅

